

P2-051

NICU/GCU の医療的ケア児の退院支援における地域関係機関との連携～中核病院での外泊訓練を経験して～

浅野 史絵、澤 亜紀子、菊池 英恵、伊藤 百合香

杏林大学医学部付属病院

【諸言】 医療的ケア児の退院カンファレンスで A 院と地域関係機関が把握している養育者の情報が異なり支援計画を変更し、中核病院に転院し外泊訓練を行った事例を経験した。多角的な視点から退院支援計画を検討する事でよりよい方法を見いだせる事を学べた。中核病院を経ての在宅移行は、個別性のある退院支援計画を提案していく事や総合周産期母子医療センターとしての機能を保つなど退院支援の視野を大きく広げるものである。今後の退院支援に繋げるため報告する。

【実践内容・倫理的配慮】 診療録より後方視調査。母へ書面を用いて同意を得た。A 院倫理委員会の承認を得た。

【結果】 在胎 33 週、1400g 台出生、先天異常症候群の児。在宅でも経鼻酸素、経管栄養、口鼻腔吸引が必要であった。母子家庭、同居している祖父母からの支援は得られた。病棟で医療的ケアや同室練習を繰り返し実施した。諸手続きが母一人で出来ず、祖母や地域保健師の支援を要した。退院カンファレンスで、A 院と地域関係機関で養育者達に関する情報が異なり、A 院では外泊訓練は不要と判断したが、地域関係機関から中核病院に転院し外泊訓練を行うことを提案された。協議し退院支援計画を変更、中核病院で外泊訓練を行い退院となった。退院後に A 院と中核病院に再入院した。

【考察】 A 院は母が医療的ケアを習得し祖父母の支援が得られていた事、送迎問題があり外泊訓練のない退院支援計画を立てた。しかし、地域関係機関は祖父母と連絡が取れず支援が受けられるか不安視していた。両者で、養育環境の認識が異なっていたため退院直前に支援計画が変更となったと考える。今後は、必要な医療的ケアが決まった時点でカンファレンスを開催し、地域関係機関と協働して退院支援計画を検討する事が重要と考える。退院後に入退院を繰り返している事から、中核病院へ転院し外泊訓練を経たことで円滑な在宅移行に繋がったと考える。さらに、在宅移行を目的とする転院は、総合周産期母子医療センターとしてハイリスク患者を受け入れるという機能を果たすために重要であり、関係各所と多角的な視点で在宅移行支援を行っていく必要があると考える。

【結論】

- ・在宅での医療的ケアが決まった時点でカンファレンスを行う
- ・関係各所と協働して退院支援を検討することで個別性のある支援計画を提供できる
- ・総合周産期母子医療センターの機能を果たすためには、中核病院と連携することが重要である

P2-052

NICU から退院する乳児の児童虐待リスクアセスメントシートの開発

—内容妥当性と表面妥当性の検討—

龜山 千里^{1,2)}、岡山 久代³⁾

総合病院土浦協同病院 看護部¹⁾、
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻²⁾、
筑波大学 医学医療系³⁾

【目的】

新生児集中治療室 (Neonatal ICU、以下、NICU) を退院した乳児は児童虐待発生の可能性が高く、被虐待ハイリスク児であることが指摘されている。虐待発生予防のためには、入院中から被虐待ハイリスク児を抽出し、関係機関と連携して、継続した支援を行うことが重要である。そこで、われわれは、NICU から退院する乳児の児童虐待リスクアセスメントシート (Assessment of Child Abuse Prevention for Neonatal ICU、以下、ACAP-Neo) の開発を試みている。本研究では、ACAP-Neo の内容妥当性と表面妥当性について検討することを目的とする。

【方法】

まず、A 病院で従来使用していた児童虐待アセスメント・ツールから新しく ACAP-Neo の原案を作成した。内容妥当性の検討では、ACAP-Neo の項目が NICU における児童虐待リスクの構成要素に集約されているか、表現や抽象度が統一されているか等について、母性看護分野の大学教員、看護管理者であり小児看護分野の博士課程修了生 2 名から意見を聴取し、検討した。次いで、表面妥当性の検討では、ACAP-Neo の項目の明瞭性、重複や不足、チェックのしやすさについて、NICU 看護の専門家の NICU 看護経験年数 10 年以上ある看護師と小児看護専門看護師・新生児集中ケア認定看護師 10 名へ質問紙調査を行い、項目について削除と加筆・修正を行った。本研究は筑波大学医の倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号 1487)。

【結果】

内容妥当性は、ACAP-Neo の項目の構成要素間での移動、項目の抽象度の統一を行った。表面妥当性は、ACAP-Neo の項目の表現および判断基準について加筆・修正し、重複する項目の一方を削除した。また、チェックのしやすさは、平均 8 分で回答でき、質問項目の量は「ふつう」が最も多い回答であったことから妥当と判断した。以上から、Neo-ACAP の原案は、NICU 入院後 1 週間の時期 19 項目、新生児用コット移床の時期 12 項目、合計 31 項目となった。

【考察および結論】

今回、専門家による項目の内容妥当性と表面妥当性の検討を行った結果、Neo-ACAP の原案は児童虐待リスクアセスメントするためのシートとしてその内容と表現が妥当であることが確認できた。

利益相反状態は存在しない。